

ふるさと大使が串本町への思いを語る 串本ふるさと大使会議を開催

ホテル&リゾート和歌山串本で1月25日、令和2年串本ふるさと大使会議が開催されました。串本ふるさと大使は、町外で活躍する町出身者や町にゆかりのある方に町長が委嘱し、現在14名が就任。町のPRや情報発信に取り組んでもらっており、大使から町に対する意見や思いを直接聞くため、年1回会議を開いています。今回の会議には大使5名が出席し、田嶋町長は新庁舎の建設や日本トルコ友好130周年の式典開



令和2年 串本ふるさと大使会議



①会議で町への意見や思いを述べる大使
②会議出席者の皆さん。(前列左から)平野啓子さん、中谷和夫さん、沼田準一さん、田嶋町長、赤木正和さん、前田裕子さん、(後列左から)佐藤武治県議会議員、結城力町議会議長、清野武志副町長、濱地弘貴企画課長

催、民間ロケット発射場などについて報告。串本町のPRに引き続き協力をいただけるよう、大使に呼びかけました。大使からは近況報告のほか、紀南の自然を活かした魅力発信、観光資源としてのホテルウォッチングの活用、情報発信を工夫することなど様々な提言がありました。会議終了後は、古民家活用事業により昨年オープンした旧園部邸の古民家カフェと南紀熊野ジオパークセンターを見学しました。

バルーンでロケットの大きさを体感 出雲小学校の児童が夢と風船を上げる

和歌山県立潮岬青少年の家で2月3日、田原地区に建設中のロケット発射場から打ち上げられる小型ロケットの大きさを体感するイベントが開かれました。このイベントは、ロケットで町を盛り上げようと同青少年の家が企画。ロケット発射場を建設する会社「SPACE ONE」の名称が書かれた垂れ幕と約60個の風船をロープでつないだ直径120cmのバルーンを、小型ロケットと同じ高さ18mまで上げました。



将来の夢を紙に書く出雲小学校の児童の皆さん



小型ロケットと同じ高さ18mまで上がったバルーン

イベントには、同青少年の家の呼びかけにより出雲小学校の児童が参加。将来の夢を紙に書いてバルーンが上ると、それぞれ手にした風船を一齐に飛ばしました。児童たちは「思ったより高かった」、「ロケットを近くで見たい」などと感想を話し、同青少年の家の山口和紀所長は「今回参加した子どもの中から、将来ひとりでも宇宙関係の仕事に就く人が出てくれればうれしい」と話しました。

交流しながら楽しく健康づくり

老人クラブ連合会がレクリエーション大会開催

串本町立体育館で2月13日、串本町老人クラブ連合会のレクリエーション大会が開かれました。この大会は、会員相互の親睦と交流を深めながら、健康づくりと会員増強の推進を図ることを目的として同連合会が企画しているもので、今回で5回目の開催。町内各地区の老人クラブから約170名が参加しました。



菓着で紙コップにお菓子を入れてプレゼントを作る

あいさつ。町のPRキャラクター「まぐトル」と一緒に準備体操をした後、10チームに分かれてパン食い競争や菓着で紙コップにチョコレートなどのお菓子を入れてプレゼントを作る競争などのプログラムを楽しみ、最後にみんなでお節を踊って締めくくりました。参加者の男性は「このような老人クラブ全体のイベントで、ほかの地区の皆さんと交流できるのはとてもいいこと。楽しいです」と話していました。



輪になって歌いながら肩をたたく「もしもしかめよ」

ジオや地域の魅力をたくさん紹介

第7回南紀熊野ジオパークフェスタ

串本町立体育館と串本町文化センターで2月15日、第7回南紀熊野ジオパークフェスタが開催されました。このイベントは、南紀熊野ジオパークや吉野熊野国立公園の認知度・理解度の向上を図ることなどを目的に、同ジオパーク推進協議会と環境省近畿地方環境事務所が開催。町立体育館での物産展には、関係団体や各地のジオパークのPRブース、地元産品やスイーツの販売、クラフト作りなどの体験



- ①たくさんのブースが並んだ町立体育館での物産展
- ②クラフト作りなどの体験を楽しむ来場者
- ③講演する海洋研究開発機構の平顧問



コーナーなどがあり、多くの人でにぎわいました。町文化センターでは、フォトコンテストの表彰式と国立研究開発法人海洋研究開発機構の平朝彦顧問による「南紀熊野ジオパークが語る日本列島の誕生」と題した講演があり、約350名が来場。平顧問は「南紀熊野ジオには、自然と人々の関係の原点を理解する豊富な見所がある。人々の暮らしに役立ち、元気を作るジオパークをみんなで育てたい」と話しました。